

## ■感染対策委員会

平成3年10月、当院の基本理念である「患者さんにとって最も良い医療を提供する」を実現するため、患者さんや職員が医療関連感染により被害を被るこのがないように感染対策委員会（ＩＣＣ）を設置した。

さらに平成15年4月からは、ＩＣＣの下部組織として、感染対策チーム（ＩＣＴ）を発足させ、機動性のある実行部隊として機能させている。

また平成18年5月より、ＩＣＴの下にリンクナースチームを組織し、病棟におけるアンテナ役として機能するとともに、マニュアルや感染関連情報の周知徹底と感染防止対策の実施状況の把握に努めている。

今年度の特筆すべき事業としては、平成20年1月より、病院全体の情報共有化を目的に、月1回を目途にＩＣＴニュースを発刊したことが挙げられる。

### 定期開催：

#### ① 感染対策委員会（ＩＣＣ）

月1回（最終週の水曜日…院内会議に引き続いて開催）。

2008年4月で通算160回を数える。メンバーは各所属の長で構成。

#### ② 感染対策チーム（ＩＣＴ）

原則的に月1回（第3週の水曜日） 必要に応じて臨時招集あり。

2008年4月で通算68回を数える。

〈現在のメンバー〉

田垣、後藤（以上医局）、滝本、多田、中野渡、居上、白川（以上看護部）、風間（薬局）、中村（事務）、中川（検査科） 以上10名

#### ③ リンクナースチーム

メンバーは病棟と外来ナース（1年程度でメンバー交代）

原則的に月1回（第3週の月曜日） 必要に応じて臨時招集あり。

### ＩＣＴ活動内容：

1. 検出菌の監視（サーベイランス）と薬剤感受性チェック
2. 感染対策マニュアルの追加・改訂
3. ＩＣＴラウンド（年2回）
4. 感染対策のための自己点検（月1回）のチェック
5. 感染対策のための院内講習会の開催（年2回）
6. 職員へのワクチン接種（労働衛生委員会と共同事業）
7. 感染対策スタッフの講習会への派遣
8. 抗菌剤使用状況の把握と適正使用勧告
9. その他

### 活動結果：

#### 1. 検出菌のサーベイランス

##### ① 結核菌

H19年度は4件の結核菌検出を認めた。3例は外来時点で診断し、速やかに専門施設に紹介している（水際作戦と称して、できる限り外来レベルで診断し、院内へ結核菌をもち込まないように努めている）。入院症例は1例で、喀痰培養6週で陽性（8F病棟）となった。年2回の定期検診で、感染・発病を疑われる職員は認めていない。

当院では呼吸器科があることから肺結核の患者さんが受診する可能性があること、また古い結核病変をもった重症の透析患者さんもあり、常に結核菌排菌の可能性を念頭に置いている。そこで日頃より空気感染に対する対策も啓蒙している。

結核菌検出状況（参考）

2004年 7件（外来4、入院3）

2005年 5件（外来4、入院1）

2006年 3件（外来1、入院2）

2007年 4件（外来3、入院1）

## ② MRSA

当院では慢性呼吸不全で長期にわたり酸素療法（さらにはNPPV療法も併用）を施行している患者さんや、様々な合併症を有した血液透析あるいは腹膜透析を行っている患者さんが多く、MRSAの保菌者が常に存在している。いわゆるcompromised hostの状態にある患者さんも入院しており、時に呼吸器、尿路、腹膜感染症、敗血症の発生を認めている。今年度は創部の膿からの検出が目立った（他院からの転院例）。MRSA感染症の発生や菌の検出状況にはICC・ICTで細心の注意を払っており、これまで交叉感染を疑われた事例はない。

平成19年度のMRSAの検出状況は、別表による。

## ③ 緑膿菌

当院の特殊性として慢性呼吸器疾患患者さんや気管切開患者さんが多いこともあり、常に喀痰などからの検出がある。その多くは定着菌だが、まれにcompromised hostに感染症を発症することがある。

最近我が国で問題となっている多剤耐性緑膿菌（MDRP）は、H19年8月に、compromised hostの症例（カテーテル先端部より）に1回のみ検出したが、その後は認めていない。

## ④ インフルエンザ

職員や療養病棟患者へのワクチン接種の効果のためか、病棟患者や職員への流行は、最近3年間は認められていない。

## ⑤ ノロウイルス

今期はH19年11月と12月の2度にわたり、ノロウイルスによると考えられる複数病棟に及ぶ胃腸炎の流行があった。院内講演会での事前の講習にもかかわらず、蔓延を阻止できなかった。これに鑑み、今後の対応策として、

ア. ノロ迅速診断キットの院内設置、

イ. 現場でわかり易い「ノロケア基準」をマニュアルへ追加した。

## ⑥ その他

H18、19年度ともに疥癬発症例はなかった（H17年度1例あり）。

またVRE、VISAなどの耐性菌や特殊な菌の検出は認めない。

## 2. 感染対策マニュアルの整備

2008年中を目途に、3度目のマニュアル大改訂を予定している。

そのためにH19年11月よりワーキング・グループを組織し（メンバー8名）、2週間に1回のペースで改訂の叩き台作りを行い、ICTへ提出している。

## 3. ICT院内ラウンド（年2回）

H19年7月13日とH20年1月18日に実施

リンクナースチームの導入により、病棟での感染対策に対する意識レベルと理解の向上が認められているのが実感された。

本年度より問題点はICTニュースで広報している。

## 4. 感染対策のための自己点検（月1回）

感染対策の基本（標準予防策＋感染経路予防策）の意識付けのために役だっていると思われるが、やや惰性に流れている面もうかがえる。

## 5. 院内講習会の開催（年2回）

### ① H19年6月19日

テーマ 「院内感染とその対策」

講師 ファイザー製薬株式会社 石原 英樹氏（感染症領域担当）

出席者 84名

### ② H19年11月22日

テーマ 「ノロウイルス胃腸炎の特徴と感染予防対策」

講 師 中田小児科（札幌医大非常勤講師） 中田 修二先生  
出席者 68名

#### 6. 職員へのワクチン接種

- ① インフルエンザ  
127（接種者）／171（全職員）人 接種率 74.3%  
（参考 H17年度 79.2%、H18年度 74.9%）
- ② HB肝炎  
14名→全員抗体陽性化  
（参考 H17年度 17人、H18年度 17人 全て抗体陽性化）

#### 7. 感染対策スタッフの講習会への派遣

- ① 第5回北海道感染対策セミナー（2007年11月10日）  
メインテーマ：インフルエンザ対策  
北海道厚生年金会館 出席者 田垣 茂、
- ② 第54回結核談話会（2007年11月24日）  
平成19年度 札幌市結核診療機能強化研修  
札幌市保健所 出席者 田垣 茂、
- ③ 感染・医療事故防止セミナー2007 in 北海道  
平成19年7月7日  
北翔大学 北方圏学術情報センター  
出席者 松岡 優子、倉 ヒナ子、越前屋明子、澤田 幸子（リンクナース）
- ④ 治療環境における感染管理の問題点  
平成20年3月20日  
北海道自治労会館  
出席者 松岡 優子、中野渡 悟、上野 絵里（リンクナース）

#### 8. 抗菌薬使用状況の把握

平成20年1月より当院においても、カルバペネム、ニューキノロン系、第四世代セフェム、抗MRSA薬の注射剤については届け出制を実施することとした。当院の特徴として慢性呼吸器疾患を合併した肺炎の治療例が多いこともあり、ややカルバペネム、ニューキノロン系抗生剤の使用が多い傾向を認めるものの、ペニシリンや第二世代セフェムもよく使用されており、問題となる耐性菌の出現はない。

また抗MRSAについては当院では現在4剤（VCM、ABK、TEIC、LZD）使用可能である。平成18年度はよくミキシングされていたが、今年度はTEICとABKの使用量が多く偏りを認める（図表参照）。これは効果及び副作用の観点で、ある症例に集中的に使用されたことによる偏り（特にTEICについては）であることが判明している。

#### 9. その他

TQM活動に一環として、5F病棟で実施されたサクシジョンチューブのディスポ化の試みを感染対策委員会として評価し、病院長に具申し、院内完全ディスポ化として採用、統一した。

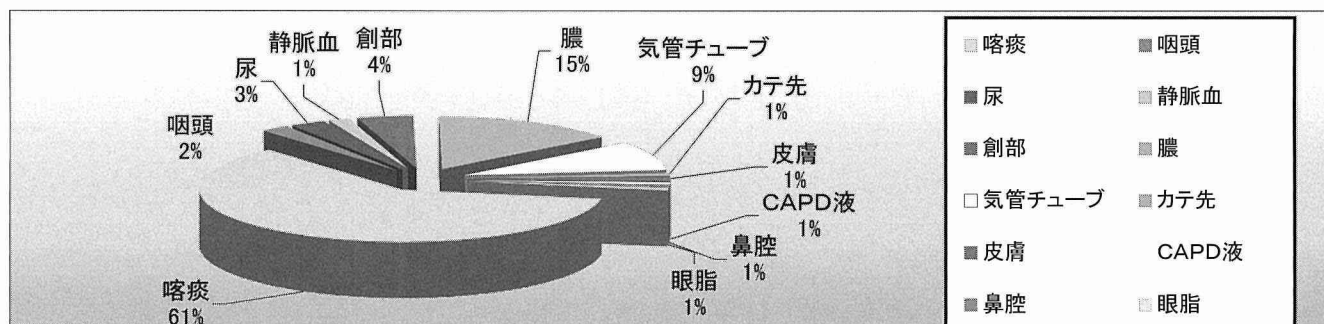
最期に、常々言われることですが、感染対策の基本は標準感染予防策を中心とした、感染対策の基本の徹底につきます。たとえCDCの様な立派なガイドラインやマニュアルがあったとしても、一人一人の職員の感染に対する意識と実践が伴わなければ、絵に描いた餅になってしまいます。

どうぞ皆様のご協力を宜しくお願い致します。

文責 田垣 茂

## 2007年度 M R S A院内感染情報

部 位	H19.4月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期(計)	10月	11月	12月	H20.1月	2 月	3 月	下半期(計)	合計
	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
喀 痰	4	7	2	3	3	9	28	15		14	10	9	6	54	82
咽 頭			1			1	2	1						1	3
尿				1			1				1	2		3	4
静 脈 血							0	2						2	2
創 部		1	1		3		5				1			1	6
膿	1		3	3			7	6		1	2	2	2	13	20
気管チューブ	1		1	1	4		7		1	1	2		1	5	12
カ テ 先			1				1							0	1
皮 膚		1	1				2							0	2
CAPD液							0					1		1	1
鼻 腔							0		1					1	1
眼 脂						1	1							0	1
件 数 計	6	9	10	8	10	11	53	24	2	16	16	14	9	81	134
人 数	5	5	8	6	5	5	34	11	2	8	9	9	8	47	81



## 2007年度抗MRSA薬使用状況

	2007. 4	2007. 5	2007. 6	2007. 7	2007. 8	2007. 9	2007.10	2007.11	2007.12	2008. 1	2008. 2	2008. 3	計
バンコマイシン	0	0	0	0	10	0	12	0	0	0	26	0	48
ハベカシン	0	10	0	0	10	20	3	0	31	28	7	15	124
タゴシット	10	0	0	10	0	0	17	20	26	22	13	20	138
ザイボックス	0	5	0	0	0	15	0	8	6	0	0	0	34

